

# 平成25年度 学校自己評価システムシート (県立久喜工業高等学校)

目指す学校像	自分創りを目指し、望む進路実現を図り、真の感動を味わえる“こころ・技・からだ”が育つ学校 -①もの創りの“こころ”と“技”を身につけた人づくりを目指す。 ②知・徳・体のバランスのとれた人づくりを目指す。-
--------	---

達成度	A	ほぼ達成	(8割以上)
	B	概ね達成	(6割以上)
	C	変化の兆し	(4割以上)
	D	不十分	(4割未満)

※学校関係者評価実施日は、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする

重点目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>個に応じた学力と技術力の向上を推進する。 授業態度の確立を図る。授業内容の充実を図る。資格取得等を奨励する。</li> <li>基本的生活習慣の確立と向上を推進する。 欠席、遅刻、早退の減少を図る。服装、頭髮指導の徹底を図る。挨拶と正しい言葉遣いの励行を図る。</li> <li>個々の生徒に応じた進路指導を充実する。 生徒の職業観や労働観を育成するとともに、進路希望に応じたきめ細やかな指導を行う。 地域の信頼と期待に応える開かれた学校づくりを推進する。</li> <li>地域の信頼と期待に応える開かれた学校づくりを推進する。 中学生やその保護者に積極的な情報提供を行う。小学校との交流及び地域の行事等への参加。</li> </ol>
------	--

※重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。  
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

出席者	学校関係者	8名
	生徒	3名
	事務局(教職員)	10名

学校自己評価		年度評価(1月31日現在)		学校関係者評価			
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況		
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>各教科ごとに基礎学力向上に向けた取り組みを継続すると共に、退学者数を減少させるための指導方法を検討することが必要である。</li> <li>成績不振者は、人数・欠点数共に減少したが、成績優良者を増加させるための取り組みを検討することが課題である。</li> <li>資格取得の意欲を向上させるために、生徒個々の資格の取得状況を、一括して把握するシステムを構築することが課題である。</li> </ul>	授業改善、学力向上 ①基礎学力向上のための取組 ②互見授業の実施による教員の指導力の向上 ③資格取得の意欲喚起	①基礎学力向上のための取組を、各教科・学科が計画・実施・検証を行う。 ②他の教員の授業を見る互見授業(公開授業)週間を実施し、互いの授業について学科・教科で検討することにより教員の指導力を向上させる。 ③資格取得の状況を把握するシステムを構築し、現在の資格取得状況を把握させることにより、生徒が新たな資格取得に向けて意欲的に取り組むようとする。	①基礎学力向上に向けたPDCAサイクルを導入する。また、基礎学力向上の取組を1学期に、成果と課題を3学期に一覧表にまとめて保護者に配布する。 ①欠点取得者数、欠点科目数を10%以上減少させる。 ②互見授業週間を実施する。(5月、11月) ③成績優良者数を5%以上増加させる。 ④資格取得状況を把握するシステムを構築し(1学期)、資格取得の意欲を向上させ、高校生専門資格等取得表彰者数、ジュニアマスター表彰者数ともに10%以上増加させる。	①1学期当初に、各教科・学科ごとに基礎学力の向上に向けた具体的な取り組みをまとめ、一覧にして保護者に配布した。成果と課題については3学期中にまとめ、保護者に配布する予定である。 ①成績不振者数は昨年度同期と同数であった。(159名→159名) ①欠点数は昨年度同期と比べ、約9%減少した。(389個→354個) ②互見授業週間は5月、11月に実施した。 ③成績優良者数は昨年度同期に比べ、約21%減少した。(83名→65名) ④資格取得状況を把握するシステムを構築し、運用を開始した。 ⑤高校生専門資格等取得表彰者数は、昨年と比べ2人減少した。(37名→35名) ⑥ジュニアマスター表彰者数は、昨年度と比べ1名減少した。(ゴールド2名、シルバー2名、計4名→ゴールド0名、シルバー3名、計3名)	B	・成績の欠点数は減少したが(昨年度比約9%減)、成績優良者は減少してしまっ(昨年度比約21%減)。来年度は、欠点数減少のために引き続き基礎学力の向上に取り組みとともに、成績優良者を増加するための取り組みを実施することが課題である。 ・資格取得状況を把握するシステムを改善するとともに、活用方法を検討して生徒の学習意欲を向上させ、表彰者数の増加を図ることが課題である。
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>昨年度の遅刻者数は減少傾向にあるが、依然として高水準である。遅刻者の多くは、常習的に遅刻をする傾向があるので、学年と生徒指導部が連携を強化して指導を行うことが必要である。</li> <li>退学者を減少させるためには、生徒が基本的な生活習慣を身に付けて、高校生としての自覚を持って学校生活を送ることが大切である。今年度は、生徒指導部が牽引役となり、全教員が一丸となって、生徒に「基本的な生活習慣を確立させる」指導に取り組むことが課題である。</li> </ul>	生徒指導 ①遅刻指導の継続的な実施 ②挨拶運動の組織的な実施 ③下校指導の定期的な実施 ④退学者や問題行動を起さない指導の充実	①全教職員が参加する遅刻指導週間を、年間を通して実施する。 ②毎月当初に、PTAスクールサポーター(保護者)・生徒(生徒会・生活委員)・教職員が協力して挨拶運動を行う。 ③下校時の非行防止、交通安全、通学路の清掃を目的として、全教員による下校指導を実施する。 ④退学者の減少や問題行動を未然に防止する指導体制を確立するために、生徒指導部が中心となり、担任・学年と連携を図り、校内巡回や頭髮指導等を行う。	①遅刻指導週間は年間8回以上実施する。 ①遅刻者数を昨年度比20%以上減少させる。 ②挨拶運動を年間10回以上実施する。 ③下校指導週間は年間4回以上実施する。 ④校内巡回週間は年間3回以上実施する。 ⑤退学者数を昨年度比10%以上減少させる。 ⑥問題行動数(指導件数)を昨年度比20%以上減少させる。	①生徒指導部が主体になった遅刻指導週間は年間9回実施した。 ①全校で遅刻に取り組みながら、生徒の意識を変えなくてはならず、遅刻者数の減少に関しては、昨年同期比5%減少に留まった。 ②挨拶運動は11回実施した。1学期は、生徒が参加して挨拶運動を行った結果、徐々に挨拶をする習慣が身についてきた。 ③下校時の交通安全と生徒指導のために、生徒指導部の教員が下校指導を8回実施した。 ④校内巡回は、各学期ごとに計画を立て、昼休みに教員が3人1組で校内を巡回した。 ④学年を中心にきめ細かな指導を行った結果、退学者数が昨年同期比5%減少した。 ④問題行動数(指導件数)は、1年生が全体の70%を占めた。また、指導件数は、昨年同期とほぼ同数であった。	B	・来年度は、遅刻指導に重点を置いた生徒指導を行うことが重要である。また、生徒への指導が一部の教員に偏る傾向があるため、全教員が共通理解を持って指導に取り組む体制を構築することが課題である。 ・問題行動は1年生が大部分を占めるため、入学直後から全教職員が連携してきめ細かな指導を行うことが重要である。また、中学校と連携を図り、不本意入学を減らし、目的意識を持った生徒を入学させることが課題である。
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>高校生の就職難の中、本校では約60%の生徒が就職を希望している。生徒の進路実現を図るために、生徒一人ひとりに応じたきめ細かな指導を充実させることが必要である。</li> <li>進路を充実させるためには、進路指導部と学年が連携し、計画的かつ組織的に進路ガイダンスや進路情報の提供を行うことが必要である。</li> <li>生徒の進路決定に際し、保護者への情報提供を多くするために、進路ガイダンスや個別相談会を設けることが必要である。</li> </ul>	進路指導 ①求人増加のための企業訪問の実施 ②就職率・進学率100%の実現 ③保護者への情報提供と連携の強化 ④「進路の日」の新設	①求人増加のために、進路指導主事、進路指導部教員による企業訪問を実施する。(年間) ②全学年で、進路指導部と学年が連携した継続的な進路指導を確立する。 ③保護者へ進路情報を積極的に提供するために、PTA支部総会や三者面談時に個別相談会を実施する。 ④全学年が同一日に実施する「進路の日」を設定し、各学年に応じた進路指導を行う。(12月)	①今年度の求人数は昨年度比14%増加した。(12月現在) ②1学年 企業人事課経験者による講演会実施(12月) 2学年 インターンシップ5日実施(1月)、職業適正検査実施(12月) 3学年 進路ガイダンス実施(5月)。全教員による面接指導実施(6月) 教育支援コーディネーターによる面接指導実施(2学期) ③PTA総会(5月)及び夏夏季支部総会(7月)で保護者対象進路指導講話実施 ④1年集団宿泊研修保護者説明会で進路指導講話実施 ④2年修学旅行保護者説明会において進路指導講話実施 ④6月に保護者対象の個別進路相談会実施 ④全学年同時実施の「進路の日」を12月17日(火)に実施 1学年 進路講話実施 2学年 3年生からの進路体験談報告及び職業適性検査実施 3学年 教育支援コーディネーターによる講話及びビジネスマナー講話実施	A	・リーマンショック以来落ち込んでいた求人数が回復傾向にある現在、未就職者を出さない指導として様々な方策を行ってきた。その結果、この数年は就職率・進学率ともに100%を維持しているが、内定まで時間がかかる生徒がいる現実を踏まえ、入学当初から進路に対する自覚を喚起させるための対策が課題である。 ・進路の日は、1年生から進路意識を高める取り組みでよいと思う。また、講演会を行うときは、生徒の実情を踏まえた内容になるように、講演者との打ち合わせを行うことが大切である。	
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校の情報を生徒・保護者や地域住民に迅速且つ的確に伝えるために、近隣小学校との連携や市主催の行事に積極的に参加することが必要である。</li> <li>本校入学を希望する中学生を増加させるために、中学生や中学生の保護者への働きかけが課題である。</li> <li>緊急災害時の連絡や学校行事等の教育活動の連携を図り、地域の高校としての認知度を高める。</li> <li>50周年記念事業校内実行委員会を開催し、各組織が連携を図り準備を円滑に行い、記念式典・記念事業を計画的に実施する。</li> </ul>	開かれた学校づくり ①校外への積極的な情報発信 ②積極的・効果的な生徒募集の実施 ③緊急時の連絡体制の整備 ④開かれた学校づくりの推進 ⑤周年行事の計画的な実施	①多くの中学生や保護者に本校の教育活動を知らせるために、学校HPの更新回数を増加するとともに、学校PR資料を作成し、積極的に情報を発信する。 ②意欲ある生徒獲得のために、中学校等へへの出前授業を積極的に行う。 ③学校の情報をメールで配信するシステムを構築するとともに(年度当初)、生徒・保護者の65%以上の登録があるようにする。 ④地域の行事参加を2回以上、小学校との交流を2回以上行う。 ⑤記念事業実行委員会を計画的に運営し(年5回以上)、周年行事(記念式典・記念事業等)を計画どりに実施する。	①HPの更新は昨年比119%増加の182回、アクセス数は昨年比26%増加の30,203回であった。(1月現在) ①学校PR資料(久喜だより)を年4回発行し、第1号を市内全中学校(11校)の3年生全員に配付した。(5月) ②中学校への出前授業を2回実施。出前授業をととして、本校の教育活動を知らせることができ、生徒募集に効果があった。 ③情報配信システムを構築(4月)、行事等の情報を効果的に発信することができた。 ④保護者会やホームルームで情報配信システムの登録依頼を実施した結果、生徒・保護者の登録率が84.9%と高い登録率になった。 ④久喜まつりに3回参加。小学校との交流授業を1回、児童館の出前授業を1回実施。地域住民との交流を深めて、地域の高校としての認知度を高めることができた。 ⑤記念事業実行委員会を9回実施。生徒・保護者・同窓会・教職員の協力のもと記念事業を計画どりに実施し、記念式典を盛大に行うことができた。	A	・学校説明会や体験入学の見直し、HPの積極的な情報発信や地域の小学校との連携の強化を図り、本校の教育活動の情報を積極的に発信し、地域の高校としての認知度をさがるに課題。生徒募集につながることに課題である。 ・文化祭の時に、近隣4区へ回覧を行ったが、今年の取組は非常に新鮮でよかった。地域との新しい連携になると思う。 ・生徒から、文化祭来場者に対して積極的な声掛けがあったのが親しみやすかった。生徒からこのような姿勢が期待できることは素晴らしい。 ・地域の商工会とともに学校と関わった活動を行っていただきたい。 ・文化祭のPRについて、久喜市外の地域に対しても情報提供ができるような取り組みをしていきたい。	

学校関係者評価	実施日 平成26年2月14日
学校関係者からの意見・要望・評価等	<ul style="list-style-type: none"> <li>校長が各学年において学校独自の資格取得を奨励する表彰制度があると思う。</li> <li>社会人でも褒めて伸ばすのは効果的である。企業では資格を取ったら来客が見える位置に資格取得者を掲示するなどの工夫を行っている。そのような取組で、多くの人にチャレンジしようという気持ちになると思う。</li> <li>資格取得状況を把握するシステムを改善するとともに、活用方法を検討して生徒の学習意欲を向上させ、表彰者数の増加を図ることが課題である。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会において遅刻は相手の信頼を失う行為であることを教えることが大切だと思う。</li> <li>50周年記念式典での生徒の態度は、りっぱであった。生徒は、きちんと生活しなければならぬという雰囲気になれよとできると思う。学校全体での雰囲気づくりが大切である。</li> <li>問題行動を起こす生徒は、家庭内の問題も影響しているように思う。保護者との連携を綿密に取ってほしい。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>就職率が100%という状況がいつまでも続くとは限らない。今後の経済状態を踏まえつつ、面接指導や学習指導を引き続き頑張りたい。</li> <li>大学では、資格が関係する職種の採用が増えている。資格は共通に理解できるものなので、是非とも奨励してほしい。</li> </ul>